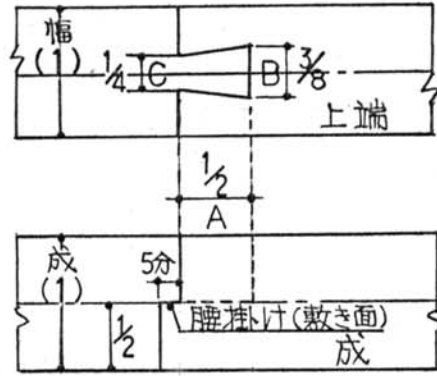
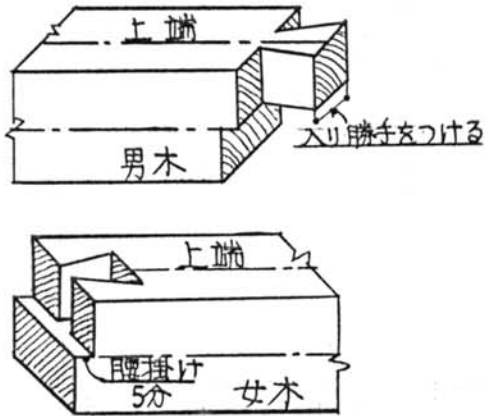


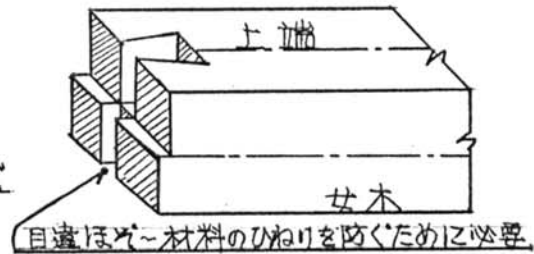
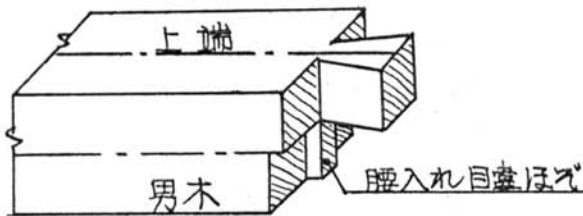
二つの材の加工欠除が女木と男木が左右の違いで同形であり、栓大釘を打ち込み二つの材を緊結する工法で継手の位置は各横架構造部位によって定める。継手として主に 追掛け継ぎ(大釘打ち)、追掛け大栓継ぎ、金輪継ぎ、しりばさみ継ぎ などがある。

★腰掛けあり継ぎ ~ 腰掛け(敷き面ともいう)幅5分(15mm)。成は1/2.のか所につけるのを原則とする。下級の継手で土台や母屋などの継手として用いられる。



- 4寸(120mm) 角を基準とする。
- 3.5寸(105mm) 以下の場合は、  
A=1.5寸(45mm)  
B=1.5寸(45mm)  
C=1寸(30mm) 寸法が多い。

★腰入れ目違付きあり継ぎ ~ 腰掛け幅。目違柄長さは5分(15mm)。目違柄幅はあり首と同寸法。成は1/2.のか所につけるのを原則とする。目違い柄は二つの材のねじれを防ぐために必要である。



○継手墨付け、加工(切込み)に付いて、~ 継手組み際し掛け矢(木づち)で1~2回叩いて継手組が出来る程度に加工する。(かたからず、あまからず、簡単にはずれないこと。)

